

『ビブリオバトル』で盛り上がる

7月9日（火）、2年生の国語の授業で『ビブリオバトル』が行われました。

『ビブリオバトル』とは、一言で言えば読書会。

公式ルールでは、参加者がそれぞれ自分の推薦する本を1人5分間で紹介し、その後、参加者全員で2～3分間、ディスカッションを行う。全ての発表終了後、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員が1人一票で行い、最多票を集めた本をチャンプ本とする、というものです。

今回、2年A組からD組までの4クラスが一時間ごとに行いましたが、どのクラスの発表者もしっかりとした発表をし、ディスカッションでは盛り上がったと聞きました。

仲間に自分のお気に入りを紹介しようと流れを組み立てること、仲間の意見から本の面白さを知ること、その本について議論を交わすこと、幅広いジャンルの本への興味をもつこと・・・など多くのメリットがあります。

今回の『ビブリオバトル』の授業を、日常の読書に繋がれたらいいなあと思います。

囲みの中は、学校図書館司書の田中先生からのコメントです。

気付いたこと、良さを実に丁寧にまとめてくださいました。有難うございました。

☆本を読んだことをきっかけに理科を好きになった、理科の授業で興味をもって読んだ、本を読んでペットレスキューや探偵という仕事があることを知った、など本を通して新しい知識を得たのは素晴らしいことですね。

☆みんなに「復讐のマンガを読んだことはありますか?」「ホームポジションはありますか?」など、問いかけるように話しているのが良かったです。表紙の絵を示しながらの施名もわかりやすかったです。

☆手振りをつけて話している子は堂々としていて、見ている人をひきつける話し方ができていてすごいですね。

☆本の紹介をする時に絵を見せてくれましたが、見せたいページに付箋が貼ってあり、きちんと準備されているなど感心しました。本があまり好きでなくても、世間で話題になっていることをきっかけに本を楽しめたのは、読書生活への大きな一歩ですね。

☆哲学の本を読んで自分の家族にはない関係性を想像してみるという発想は面白いと思いました。

